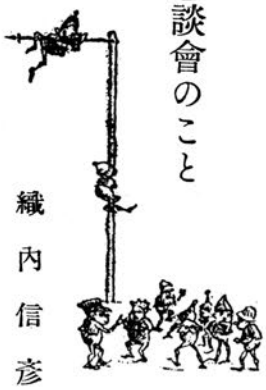
會報

昭和17年4月　116　日本山岳會

學生懇談會のこと

織内信彦



東京にある大學山岳部間の横の連絡を圖ることを目的として本會内に日本山岳會學生懇談會といふ學生を主體とした純然たる親睦機關が出來てから今日で一年餘になるが、懇談會の動き（といふと大袈裟に聞えるが）については何か會合を催した都度本會報を通じてお知らせしてきてゐたところ、昨夏の空前未曾有の動員以來學生の身邊にも種々と豫期しない異變があつたり、その後會報の減頁があつたりした爲、最近の情勢に就いては一向報告する餘裕を失つた態であつた。一つには懇談會の主唱者でもあり且最も熱心な推進力になつてゐた望月君の公務不在といふやうなことがあつて、事務的な運行が圓滑を缺いた故もある。その後の成行きについてこの邊で一應まとめておかなければ機を失することにもなるので編輯子の需めに應じたわけである。

世話人といふ物好きな役は成立以來望月君と筆者とが引受けてゐたが、昨春來慶應O・Bの金山君が新に加はつて一應强化されたと思ふまもなく望月君の出征といふことになつた。七月の動員以來、學生の旅行禁止、社會狀勢の不安等は學生登山界の第一線を些からず去勢してしまつた爲、勿論その登山成果にも見るべきものはなかつたと思ふ。この間委員校の人達によつて如何にしてかうしたスランプを脱すべきかが熱心に研究されたが、所詮は時勢の赴くところ如何ともし難く、禁を犯したり、法を枉げてまでも自分達の主觀を押し通すことが出來なかつたのは止むを得ない歸結として誰からも咎められるべきものではなからう。

×

特筆したいのは、懇談會とは類縁の間柄にある關西學生山岳聯盟代表委員諸君の數回に渉る上京である。中央行政廳からはるかに離れた關西の人達には、何かと社會狀勢の推移に敏感であり、その故にかうした惱みも一層深刻であつたとみえて、多忙なうちを割いて再度ならず打合せとその筋の意嚮打診に參られたことは恐縮でもあり、以てその勞を多とせねばならない。懇談會はその度に虎ノ門に委員會を開いて時間一杯諸般の問題を檢討しあつた。屢々激論も闘はして、學生登山者は如何にあるべきかを把握しやうと努めた。さうした内容については茲に述べられないが、相互に啓發されたことは些なくなかつたであらう。

秋になつてからは、學生體育運動の總元締ともいふべき文部省の體育課長北澤清氏を恒例の商工倶樂部に招待して、七月以降急激に進展した狀勢下に於ける、學生スポーツ、特に登山に關して一席講話を拜聽した。北澤氏は學生時代穂高附近で岩登りなどもやり、その後外遊してアルプスの一端にも足跡を殘してゐられる方であり、永らく蹠聯の役員をされたりした方でもあるので、その講話には大いに指導性あるべきを期待してゐたのであるが、やはり官僚といふ特殊な立場におかれる關係もあつてか、われ〳〵の熱望した如き結果を得られない極めて常識的なことに終始したことは物足りない憾もないではなかつたが、學校山岳部員と、學生體育行政官とが膝を交へて懇談しあつたといふことのみでも、その收獲は見逃せたいものがあつたらうと思ふ。これがきつかけになつて休暇の問題、學生體育資材配給等現下多々ある學生の惱みを、最も效果的にぶちまけられる相手と心易くなれたことは爾後の活動に一つの端緒を開いたことになるわけである。學生はかうした結びつきをより一層積極的に活用してゆくべきであらう。

×

昨秋は氣象の變調が災して學生登山界にも二三の悲むべき事故が起つた。懇談會は冷靜に事故の原因を檢討して將來再び前者の轍を

目次

◇學生懇談會のこと……織内信彦 1
◇甲武信岳釜の澤遭難報告…… 2
◇生駒道場に寄す（詩）…永樂孝一 2
◇白馬嶽遭難顚末…… 4
◇東印度諸島　主要山岳高度表1（スマトラ島）…… 4
◇會員通信（月原俊二、中村德郎　畠中善哉、三浦敏雄、古田彰）… 5
◇會務報告、その他

踏まざらんことを自戒する目的で研究會を開催した。商大及日大の當事者校は苦境を押して忠實明細な狀況を發表し、各校は眞面目に之が批判を試みた。物資不足の際に、はからずも間違の近因がほんの手近かにあることを今更の如く痛感したのであるが、その二三の批判については別に人を得て掲げる筈である。

かくして今次の戰爭を迎へて學生登山の活動範位は益々狹ばめられつゝある。成行きに委せてさからはずに進む方法と、無理にも血路を開いて突進する行き方と二つの道が考えられるが、その何れを得ゝするかは俄に斷定出來ない。

手に入らない用具は默してゐれば益々入り難くなる。といつてこのまゝ押し流されてゐれば當國の登山水準は低下するばかりである。

積雪季登山には必要不可缺なパン類も日常生活にさへ事欠くほどであつて、到底まとまつた購入など望めない。依然として六大學野球にスパイクシュウがあり、皮革球が使用されてゐる以上登山資材ももつと配給されていゝわけであつて、配給の不均衡はあながち市街地の魚商や青物商のみには限らないやうである。體育資材に限らず凡ゆる統制物資の配給狀況をみてゐると、個人單位には殆ど割當をしないやうである。學生登山界が現在のやうな形のまゝでゐるなら、恐らく統制物資の割當などは今後絶對に望めなくなるであらう。

世には配給を受けることだけを目的にした便法上の統制機關が不愉快なくらゐ續出してゐる例からみても、學生登山物資の配給を受ける便法として甚だ功利的な考へ方であるが何かもう少し智慧があつてもよさそうな氣がする。しかし、懇談會はさうした役割まではその性格上負ふことは出來ない。また日本山岳會がそこまでお世話することも現在の機構では出來ない。これは飽くまで學生自體が自主的に檢討せねばならぬ問題であらう。懇談會としてはやはり單なる親睦機關であり、横の連絡をはかる程度のことを以て滿足しなければならぬのではあるまいか。假に仕事をするとしても、せいぜい不統一のまゝ殘されてゐる地名名稱の統一協議の邊に止まる程度である。

甲武信岳釜ノ澤

遭難報告

東京商科大學山岳部

はじめ

餘りに常識的な、そして餘りに平凡な此度の遭難は、たゞ言ふべき言葉なく私達をして混沌の悲しみの淵に落ち入らしめたのでありました。木綿の薄着、空腹、風雨そして凍死、此の一連の方程式をのみ眺めた時或は人はその山を輕視した事を批難するでありませう。然し、日頃山行を共にしておつた私達と致しましては、一途に彼等が山をなめすぎたのであつたとは、何か斷づるに忍びないものを感ずるのであります。たゞ彼等にも又知らず輕卒な點があつたのであります。とあれ常識を常識として行動しなかつた諸點、そして惹き起された此度の遭難は、伸びんとする若き部員の嚴しき戒ともなるでありませう。同時に、常日指導の側に立つておつた、私達上級部員の大きな咎が反省されるのであります。

一行及び計畫

リーダー　前田道夫(專門部二年)

細野眞令(同)　古澤孝平(同)
長沼廣次(專門部一年)
大崎幸太郎(同)

鹽山—甲武信岳—國師ケ岳—朝日岳—金峰山—甲府　四日行程

行動

昭和十六年十月十七日　晴
新宿(午前八時發)—東澤二股小屋附近飯場(午後五時着)
十月十八日　曇後雨
飯場(午前七時發)充分なる朝食をとる。然し出發を急ぎ晝食用としては飯盒一つを用意せるのみ。金山澤の出合(午前十時半)小休止。ぽつりぽつりと雨が來た。長沼がつるつと足を滑らして小さな釜にぼちやりと落ちる。下半身ずぶ濡れ、だが本人至つて元氣にて、着換を進めれど承知しなかつた。大崎のみがウインドヤッケを着る。

生駒道場に寄す

新日本の若人を創造るために
こゝ生駒山頂に根をおろした
道場
荒けづりの雄々しさが
その使命を象徴するかのやう
である
それは不撓不屈をかたどり
「次の時代」の贈物ででもある
空はあくまでも蒼い！
この朝
精氣を吹き込まれた隊員の合
唱
「君ヶ代」に國旗は翻々と風
にはためく
宮城遙拜、出征將士への感
謝！
あゝ　沸々と大和魂が胸の内
よりこみ上げる
嚴肅な朝だ
感激とは「何」であるかを敎
へられた朝だ！
簡素で　しかも充實した行爲
奉仕の尊い姿が

雨門の瀧(午前十一時半)更につめる事三、四十分、木の下に佇みて晝食をとる。コロッケ一つに飯盒一つの晝食は、なかなかに五人の腹を滿たさなかつた。合着の脊廣を濡らす程度の小雨の中を、右へ左へと輕い徒渉を繰返す。

澤より分れた地點(午後一時半)見透しの絶へた釜ノ澤を、ケルンの絶へたとおぼしき邊りより、――甲武信小屋の水場に出るコースは、此の地點より約五分程進みて右岸の尾根に取着く――ゆるく木賊山より下りたる尾根に取着く。

風雨が次第に增してくる。古澤がやがて遲れ出した。

此の時の模樣を細野は次の樣に語つてゐる。「雨は差程烈しくはなかつたが、風はとても强く、寒さがひどくなつて來た。自分は絶へず大きな聲を出してゐたのだが、此時は氣持が惡くなつて「オーイ」と言はうとすると嘔吐を感じた。

古澤は下から「ヤホー」をかけてゐた。止まるとがたがた全身が震へるので、歩かねばならなかつた。前田の所へ行つて、古澤が遲れてゐるからピッチを緩めてもらはうと思ひ三人の所迄行くと、長沼は相當へばつてゐる樣子であつた。既に長沼のリュックサックを前田が脊負つてやつたのだが、バランスがとれないから置いて行かうとしたら、長沼は未だ脊負つて行かれると言つて脊負つたものゝ、疲勞してゐるので足がはかばかしく進まないのであつた。前田は相不變の落着いたものだつた。古澤が「オーイ」と聲をかけた。話をしてゐる内にも、自分は全身ががたがたして仕方が無かつた。

「大崎が縱走路を知つてゐるから先に小屋へ行き、火を焚いておいてくれ」と前田が言つたので、自分は大崎と直ぐ行く事にした。前田は古澤を待つてゆつくり登るからと言つてゐた。何やら長沼と話してゐたが、前田の聲が常に變らず、何の苦も無いかの如くであつたのが、後になつても忘れられず强く印象に殘つてゐる」。これが生き殘つた細野、大崎が、死んだ前田、古澤、長沼と分れた最後であつた。分れて三十分、木賊山三角點の右手にひよつこり出た。然しブッシュと寒氣で二人の身體はふらふらであつた。味噌を取出して途中で食ふ。

甲武信小屋(午後三時半)同宿の人が二、三十名。直ぐ暖をとる。火にあたつても少しも暖かくない。來る筈の三人がなかなか來ない。四時半頃になつて、細野が迎へに飛出した。三角點迄來たけれど、誰の姿も見當らない。始めて何か不安になり出した。小屋に戻り、同宿の人の好意により、細野大崎及び七八人で搜査に出る。然し既に雪さへ交り出した雨、風は、當時縱走路を離れる事僅か六米程に倒れてゐた前田との間を遮つたのである。

十月十九日　晴

嘘のようなお天氣が始まつた。そして空しい搜査が、此の日僅かに發見された長沼のルックサックを中心に繰返へされだしたのである。

裝　備

着　衣

前田　シャツ(木綿)、ワイシャツ(木綿)、ジャンバー(毛製)、サルマタ(木綿)、ズボン下(木綿)、ズボン(毛製)、地下足袋。

古澤　腹卷(毛製)、シャツ(木綿)、カッターシャツ(木綿)、チョッキ(毛製)、脊廣(毛製)、サルマタ(木綿)、ズボン下(毛製)、ズボン(毛製)、地下足袋。

長沼　シャツ(木綿)、敎練服上下(木綿)、サルマタ(木綿)、地下足袋。

所　持

前田　羽毛入シラフ、ウインドヤッケ、ジャケツ、スキー手袋、シャツ、ワイシャツ

其他。

古澤　羽毛入シラフ、ウインドヤッケ、ジャケツ二枚、ズボン下、シャツ、其他。

長沼　羽毛入シラフ、ジャンバー、ワイシャツ二枚、ズボン下、シャツ其他。

食料　別に非常食を用意せず。然し鮭罐、砂糖等を有してゐたが食べた樣子は無かつた。

死體發見狀況

二十四日、奇しきも丁度初七日の日、そして私達搜索隊が行を起してから五日目だつた。三人の死體を木賊尾根に見出した。木賊山三角點より、甲武信小屋寄りに縱走路を下りて約五分、縱走路を更に釜ノ澤側に下りて約六米、石南花のブッシュの中に仰向けになつて倒れてゐる前田の死體を發見した。それより約一米下つて長沼が倒れ、そしてその胸に前田のヂャケツがかけられてあつた。側に前田のルックサックが開かれたまゝになつてゐた。五十米程下つて長沼のルックサック、更に百米程下つて古澤が、最も安らかな死顏をして眠つておつた。

むすび

以上が今回の遭難の概略であります。さて此れが原因と申しましても、徒に原則的な事柄をのべる

(以下6頁下へ)

「土」へ對する歡びとなつて
現はれて來る頃
山肌を平したキャンプサイトが生れる
(この一劃こそ永久に青年の
　鍊場たれ！)
やがて夜ともなれば
一日の熱汗を拭ふ山風が吹き
ぬけてゆく
薪を切る音が聽える鋸の音も
きこへる
間もなく圍爐火を中に、圓陣を作つて
愉快な談笑の一刻が來る
健康を謳歌する　青年の顏・
顏・顏が
一段と燃へ熾つた炎に　クロ
ーズアップされる
負けじ魂に凝り固つた集ひだ！
そうして平和な休息の「夜」が更ける――
霜夜に星ぴいたゞき
毅然と立ちはだかつた道場の
新しい日本の使命を負ふて
生れ來た道場の
健全な深い呼吸が
暗の中から聽えて來る！

永樂孝一

白馬嶽遭難顚末

日本大學山岳部

○一行の豫定及經過の推定。

昭和16年10月16日夜新宿發、17日は岩小屋泊り、18日大雪溪を登る。

17日は快晴に惠まれたらしいが、18日、大雪溪から小雪溪にうつる頃から吹雪出したものの如く、一行は眞直に尾根に向つた樣である。頂上下一一〇〇米の地點でサクランボの罐詰を八分目食べたものを發見、既に疲勞してゐたものであらうか。

○死體發見及携帶品。

一行三名の內、一名は白馬と灼子の中間の最低鞍部に、他の二人は50米程離れた後方に、何れも歩いたまゝの姿にて倒れてゐた。

食料としては米一升、佃煮少量罐詰數個、裝備としては羽のシラフ、20米のザイル及ツエルトを用意してゐた。

衣類より推してみぞれ混りの天候のため、疲勞と寒さ（尾根に出て急に風に吹かれて、ぬれた體が急冷されたため）に倒れたものではなからうか。

○備　考

直接的には一行の經驗が淺かつたために、適當な退却をなし得なかつたこと、自分の體力の實際の力をしつかり認識してゐなかつたこと、器具の使用を十分にしなかつたことなどがあげられる。

間接的には、5月以降學內新體制のため、運動部は報國團結成のため解散を命ぜられ、非公認となつたために部內の統制力が弱まつたこと、そのために小グループにての山行が流行り出してゐて、研究會などの出席は甚だ不成績となつてしまつたことが擧げられる。

岳　歷

大本彥久（工學部機械科一年）

昭和十二年八月白馬岳
〃　十四年四月入部
〃　五月富士山天幕懇親會
〃　六月甲斐駒岳
〃　七月劍岳夏季生活
〃　十一月富士山
〃　十二月熊之湯スキー合宿
昭和十五年五月八ツ岳
〃　七月穗高岳生活
〃　八月穗高、三俣蓮華、南澤立山劍縱走
昭和十六年五月燕槍縱走
〃　十月白馬岳

櫻井由弘（工學部機械科一年）

昭和十六年四月入部
〃　五月穗高岳
〃　十月日光光德沼天幕懇親會
〃　白馬岳

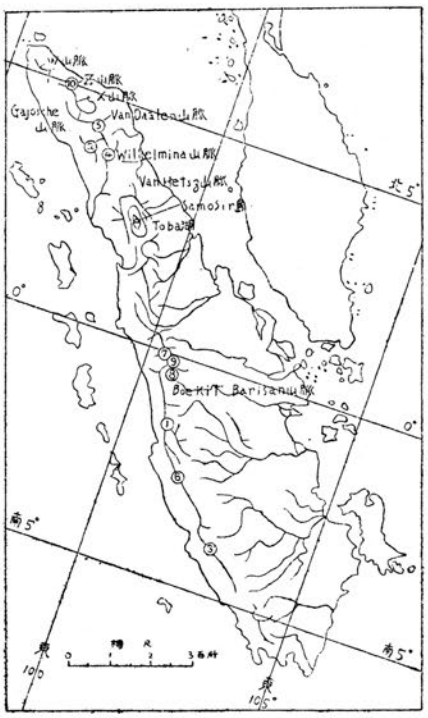
長谷川幹男（工學部機械科一年）

昭和十六年四月入部
〃　五月穗高岳
〃　十月日光光德沼天幕懇親會
〃　白馬岳

東印度諸島主要山岳高度表 1

（本表は順次各島について1500m以上の山について揭げる豫定ですが、何分地圖に乏しく揭載もれの山もあるかと思ひます。その點は皆樣の御援助を願ひ上げたく存じます。——吉阪）

1. スマトラ島（山名は北より南へ取り上げました）



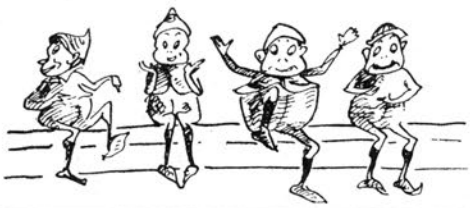
スマトラ島山脈概念圖
（丸內の數字は高度番號）

高度順位	山名	高度(m)	備考	
69	Goudberg	1762		Atjeh en Onderhoorigheden 州
36	Bateëmeutjitja	2140	W 山脈	
12	Peuëtsagoë	2780	Z 山脈	
10	**Bateëkeubeu**	2840	同上	
16	Geureudong	2590	Y 山脈	
14	Nitelong	2600	同上	
51	不明	2003	同上	
20	Tanga	2500	Gajosche 山脈	
17	Abongabong	2585	同上	
5	**Lemboe**	2983	同上	
81	Semboeang	1615	van Daalen 山脈	
2	**Leuser**	3381		
4	**Bandahara**	3030	Wilhelmina山塊	
63	Mesigit	1868	同上	
79	Boeloeh	1627	van Heutsz山脈	スマトラ東岸州
70	Semilir	1754	同上	
42	Simbajak	2094	同上	
65	Dabpalan	1852	同上	
23	Sinaboen	2451	同上	
57	Tenaroh	1918	同上	
84	Simbalon	1511	同上	
34	Pangoeloebao	2151		
22	Siboeatan	2457		Samosir
78	不明	1630		
59	不明	1910		

順位	山名	高度(m)	備考	
47	Pinapan	2037		Tapanoeli州
56	Oetoes	1921		
68	Saoet	1804		
40	Siharpehare	2110		
44	不明	2078		
50	不明	2009		
60	不明	1886		
62	Tor Sidohardohar	1877		
35	Sorikmarapi	2145		
31	不明	2199		
	Simanalasaka	不明		
86	Maleggang	1503	Boekit Barisan	スマトラ西岸州
32	Koelaboe	2172	同上	
53	Malintang	1983	同上	
7	**Talakmau**(Ophir)	2912	同上	
46	Gadang	2060	同上	
27	不明	2274	同上	
9	**Singgalang**	2877	同上	
8	**Marapi**	2891	同上	
28	Amas	2271	同上	
29	Malintang	2262	同上	
74	Lantik	1702	同上	
72	不明	1724	同上	
58	Soenggirik	1913	同上	
15	Soelasih	2597	同上	
17	Rasam	2585	同上	
39	不明	2113	同上	
52	Manderobebiah	2000	同上	
1	**Karintji又ハ Piek van Indrapoera**	3800	同上	
	Hoedloedjoedjoehan	不明	同上	
18	Raja	2543	同上	
19	Soenbing	2508	同上	

順位	山名	高度(m)	備考	
6	**Masoerai**	2933		Diamby州
24	Gedang	2446		
33	Hoeloekoeloes	2156		
27	Gedanghoeloelais	2130		Benkoelen州
48	Reges	2024		
21	Daoen	2467		
55	Kaba	1933		
76	Nipis	1681		
64	Besar	1853		
3	**Dempo**	3159		
49	Dingin	2020		
83	Pajoeng	1570		
11	Patah	2817		
13	Bepagoet	2732		
67	Pandan I	1811		
82	Pandan II	1578		
61	Seminoeng	1881		
54	Poegoeng	1964		
30	Pesagi	2232		
73	Sekintjau	1718		
25	Seblat	2383		
45	Hidjau	2068		Palembang州
66	Tebokotong	1826		
43	Tjodorg	2079		
71	Goemai	1736		
26	Balai	2284		
80	Nanti	1619		
38	Tangkit Tembak	2115		Lampoengsche州
85	Rindingan	1508		
41	Tanamoes	2102		
75	Ratai	1682		
77	Roenggoer	1677		

會員通信



比島派遣部隊より

月原俊二

×××大東亜戰爭戰士の一員として出發、早速ながら椰子茂る比島に敵前上陸以來炎熱と闘ひ乍ら益々元氣にて軍務に服してゐます。

冬坊主は暑さにヘト〳〵です。落葉季であるのに三十餘度の灼熱です。

山容、山貌、祖國のものに好一對で、食指動くこと頻り由布の秀麗あり、櫻島に似たるあり、戰火に餘煙天を焦がしてゐる。二毛作の稻の取入れは早く過ぎたが、山肌は常綠の濶葉樹に常夏の匂ひを送つて來る。世界的低火山タールヨン山は山容の秀麗をもつて、アボ山は比島第一の高山として名高い。

衞兵の劍より高く北斗哉
椰子葉もる點呼に細く北斗哉

北の雪を戀ふる心情御汲みとり下さい。

神河内便り

中村德郎

年末から廿日餘り神河内に暮して來ました。年末の裡は驚く程雪が少かつたのですが、廿一日から降り出した雪は十日間殆ど吹雪き、十一日に至つて曇天と烈風を冒して强引に槍の頭に立ちました。其後もずーつと降りましたが未だ例年に較べて少い模樣です。槍澤筋は殆ど未だ雪崩が出てゐませんでした。つく〳〵思ひます、昔の人々の苦心とその偉大な業績の數々を。よくもあの時代にあれだけの事を爲されたと。自分でその跡を辿つて見て一層その意味での感激と、それに對する尊敬の念を深く致しました。戰爭中だといふ名に隱れて徒に我々は消耗すべきではないと思ひます。あれ程華やかな舞臺であつた一月の神河内が、二十日間ほんの暫くの間宛、早稻田と同志社の方々にお會ひし

ただけで、全く私達だけの山暮しでした。淋しい限りに存じます。新日本登山道とやら云ふのはかういふものかも知れません。學生の上には色々の意味で尋常でない事態が起りました。此の際我々は眞劍に考へなければならないと思ひます。

最後に一つ、德澤の西山隱居の自宅（在島々）が暮三十日夜半全燒しました。此上ない不幸です。私達に出來ることをして何とか日頃の御世話に酬いて上げたいと思ひます。

鳥海山

畠中善哉

藏王の騷音に居たゝまれず鳥海へやつてきた岳友は此の山にすつかり氣を良くして鳥海と月山丈けは荒させたくないと云つた。

靜かな冬の日の鳥海、たまさかに滑るシュプール處女線は汚れずに新雪を載き又靜に消えてゆく、日本海に飛込むかと紛う滑降の快は此山の獨專的魅力、頂上から粉雪の千蛇谷を滑降し外輪を越して御濱から蔦石斜面を快降する快絶は更めてこゝに記する迄もない。新山は此山で最も優れたスキー舞臺であつてスキー登頂不可を云々する人は冬の鳥海を知らぬ甚だしい錯覺者である。

荒天期の一、二月を過ぎて三月から五月はスキー登山好期、三月と云つても此處ばかりは嚴冬、此山は例年五月に入つて新雪が訪れる。ともかく東北の雄である。

鳥海登山には羽越線吹浦（フクラ）驛に下車する（吹浦コースを本コースとし他のコースは之に準ずる）三合目の駒止小舍と四合目に大平小舍があるが昨年手が屆かず荒れてゐるので今期は避難小舍程度に見ていたゞきたい。今年中には裝備を調べて來期の利用に供したいと思つてゐる。三合目には此の外酒田中學の小舍（鳥海道場）と個人小舍もあるが特別の場合の外一般に開放してゐない。

最後に附言するが本コースでは四合目上は一本のブッシュなく白皚々たる大雪原であるが雪崩は絶無である。

歸還御挨拶

三浦敏雄

再々のお召になり、過日懷しい内地に歸つて參りました。日頃の御無音御詫び申上げます。

早速、春の藏王にスキーの快味をむさぼり、内地の良さを、つくづく感じました。なにしろ二年間スキーや山とお別をして調子にならない點がありますので、大いにハリキツて、今後を樂しむことにします。

では歸還お挨拶迄。

「山の繪の會」結成について

古田彰

今回山を愛し、山に登り、山の繪を愛する我々一同相寄り「山の繪の會」を結成致す事になりました。我々をとりまくかの山々は、その高き低きに拘らずわが國土の象徴であり、我が民族の母體であります。しかも山が如何なるものか、どのやうな糧として我々に與へてゐるかといふ事はまことに測りしれません。その測りしれないものを、どのくらゐ測りとるか。微力にしても極力それを描き試みる事は決して無駄な事だとは思はれません。小會を育てゝゆくために大方の御鞭撻をお願ひ申上ます。

以上は本會の結成に當りましての趣旨であります。我々は極力全力を盡してその本分にまい進せんとするものであります。

日本山岳會諸賢の御聲援をお願ひ致す次第であります。

日本山岳會と日本山岳畫協會とは兄たり弟たりの關係に於て斯界のためにこうけん致し度いと存じます。

（3頁つゞき）

に過ぎないでありませう故、たゞ三人の簡單な登山經歷を添へ本報告を終りたいと思ひます。

前田道夫

昭和十五年
四月　一橋山岳部入部
六月　奥穂高
七月　針ノ木より五色ケ原縱走
八月　志賀高原
八月　槍穂高縱走小槍
八月　奥又白池（荷上）
九月　三ツ峠
九月　石割山
十月　甲斐駒仙丈
十一月　燒ケ岳
十二月　乘鞍スキー合宿

昭和十六年
一月　槍ケ岳
二月　木曾御岳
三月　遠見尾根合宿、五龍岳
四月　小桧山
四月　八ケ岳
五月　乾德山
五月　西穂より槍穂高縱走
七月　五色ケ原より藥師、槍縱走
九月　丹澤

古澤孝平

昭和十五年
四月　一橋山岳部入部
十月　甲斐駒
十二月　乘鞍スキー合宿

昭和十六年
二月　苗場山
四月　小桧山
四月　蝮平（荷上）
五月　乾德山
六月　鹿島槍東尾根より五龍、唐松縱走

長沼廣次

昭和十六年
四月　一橋山岳部入部
五月　乾德山

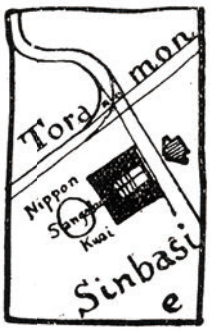
尙、終りに、此度の遭難に當り直接的に或は間接的に御援助を賜りし皆様に、郎員一同深く感謝の念を表する次第であります。

山日記　送料共一圓三十錢

◆殘部僅少となりました。御入用の方は至急御申込下さい。

高山深谷　定價 七圓五十錢　送料 三十錢

◆本書は非常な好評で、發賣早々書店では賣切れたやうです。然し本會には尙少々ストックがありますから御買洩れの方は御申込下さい。



會務報告

三月常務役員總會

三月五日18時半　事務所ニテ開催

出席者　槇、鳥山、中原、沼井、藤島、早川、茨木、金山、額田

塚本

委　任　木暮、小島、木村、中村、加藤、冠、交野、大島、三田、榎谷、富田、藤木、松井、別宮、三木、山口、高野、吉阪、津田

議　題（議長—槇理事）

一、山岳會賞授賞ノ件　十六年度授賞候補者ハ來ル十三日委員會開催銓衡セシム

尙委員ヲ左記三名追加委囑ス

中原、金山、吉阪

一、幹事候補者檢討ノ件　左記四氏ヲ推薦シ內意ヲキクコトトス

秉松學、小原勝郎、織內信彥、海瀨榮一郎

一、終身會費變更ノ件　左ノ通リ變更スルコトトシ會員總會ノ承認ヲ經テ申請スルコトトス

入會後滿十年以內ノモノ百五十圓以上

入會後滿十年以上ノモノ百圓以上

一、終身會費預入ノ件　其年度內ニ受入レタル終身會費ハ年度末ニ一括シテ基本金ニ繰入レルコトトス

一、講演ト映畫ノ會開催ノ件

六月頃開催スルコトトシ準備ハ塚本幹事ニ一任ノコト

終身會員ニ變更

大谷光明（二九七番大正元年入會）昭和十六年度ヨリ終身會員ニ變更

日高信六郎（一四二番明治四十一年入會）昭和十六年度ヨリ終身會員ニ變更）

柴山乙彥（二五九番明治四十三年入會）昭和十六年度ヨリ終身會員ニ變更

校名及代表者變更

旭醫學專門學校山岳部代表者野口理一郎（舊名セブランス醫學專門學校京城府）

京都帝國大學同學會旅行部代表者西澤則夫

受贈圖書

冠松次郎著

わが山わが渓　嚴水書房

右嚴水書房

佐々保雄篇東亞地學談話會要錄

アレウシヤン列島

右佐々保雄氏

滿鐵弘報課編

東鑾紀行　滿洲日々新聞社東京支社出版部發行

右發行所

河野不二子著

山の素顏　時代社發行

右發行所

編輯後記

本號は學生懇談會を中心とした記事をとりまとめて見ました。ヒマラヤの巨峯も我が無敵海軍の活躍を足下の印度洋で行はれるのを喜んで見てゐることでせう。併しそれらのことを思ふにつけても、學生、先輩ともに現狀で滿足したり、諦觀してゐたりして居てはならないと思ひます。學術團體は活潑に乘り出したではありませんか。

だのにこの會報には今年度とより隔月とすべしといふことが議決されました。紙の問題と財政上の節約の必要とからです。併し內容が國家に直接どうしても重要だと認められる樣になつたら、忽ちそれも解決されるでせう。切に皆樣の御協力と御活躍を期待して止みません。

（吉阪）

昭和17年4月30日 印刷納本
昭和17年5月10日 發行
頒價二〇錢
日本山岳會內
編輯者 吉阪隆正
發行者 塚本繁松
東京市芝區琴平町一（不二屋ビル）
發行所 社團法人 日本山岳會
電話芝（四三）一六四九
振替東京四八二九
東京市芝區今入町二十六番地
印刷者 鈴木和男
印刷所 株式會社 鈴木商店 オカモトヤ印刷部
東京市神田區淡路町二丁目九番地
配給元 日本出版配給株式會社

山と溪谷社リポート

『山と溪谷』七十三號について……

用紙の大削減が各雜誌、書籍に行はれましたが、本誌のみは山岳雜誌中最優良誌として一封度の削減もされませんでした。本誌は時局下益々國民體位向上の必要に即應して堅實なる編輯陣をひいて大山岳雜誌の完成に邁進しておりますので益々御支授下さいます樣御願ひ仕ります。尙本誌は目下讀者大激增につき書店にて御求め出來ぬ方は直接本社へ年極（**四圓二〇錢**送共）にて御申込み下さい。

『登山講座』について……

本社の全力をつくして編輯網を張つた我登山界、スキー界、自然科學界總執筆になる堂々たる內容は必ず御期待に添ふことが出來ると存じます。目下第一卷の校正中でありますが、部數に限りがありますので全六卷（**十二圓**）御申込み願へれば確實に揃えることが出來ると存じます。

『奧秩父』について……

我山岳寫眞界のホープである塚本閑治氏が各地を踏査して撮影された數万枚のスチールを整理し、一山塊如に分冊にして刊行されるのが本社新企劃になる『**日本山岳寫眞叢書**』です。第一篇は原始林と神秘な溪谷で知られる『**奧秩父**』が百枚を越す塚本氏の傑作寫眞と吉田浩堂、町田立穗氏の實地踏査に依る總論、案內の本文執筆に依つて、我登山界初めての寫眞と文に依る漸新な案內書が誕生致しました。尙、第二篇は『**白馬岳**』が七月中に刊行されますが、これには冠松次郎氏が總論、案內等を執筆され、第三篇『**雪の上信國境**』はスキーシーズを迎える前に刊行される豫定であります。
（各冊**一圓八〇錢** 送一〇錢）

一圖書目錄進呈致します一

東京市芝區田村町6ノ4 **山と溪谷社** 電話芝543 振替東京60249

麻防水布製

キスリング型（E式）
ルックサック

★品質優秀責任保證★ 布地見本進呈

大型	二尺	二七・六〇円
中型	一尺八寸	二五・二〇
小型	一尺六寸五	二四・三六

◈テルモス各種ハイキング用品

右は物品稅二割を加へた改正値段です
御諒承下さい

東京市神田區神保町三ノ一（專修大學電停前）
片桐テント登山具店
電話九段(33)三二一〇番
振替口座東京九一一八四番